

上記の機能を具備したシステムを、各団体・機関の情報システムとして、単独で導入するのが、「専用プラットフォーム型」と呼ばれるもので、現在でもこの仕組みが一般的である。

ただし、近年は、e-learning システムの初期導入パターンの一つとして、上述のようなオーダーメイド的なプラットフォームを購入せず、その機能をインターネット経由で利用できる、ASP（アプリケーション・サービス・プロバイダ）サービスが増加している。これは、各団体・機関において、専用の情報システムを持たず、一般的な PC とインターネット環境が整っていれば利用できるサービスであり、サービスを複数の機関に対して一括して提供する事業者が、インターネット上で利用可能な形で提供し、各ユーザー団体、あるいは個人が、そのサービスを PC 経由で活用するというものである。最近では、この ASP サービスであっても、提供されるコンテンツが多様化しており、その機能も高度化している。ユーザー側が ASP サービスを活用するメリットとしては、専用のシステムを保有する必要がないこと、また、多様なプラットフォームのサービスを並存して利用することが容易になるため、独自でシステムを持つよりもバラ

エティに富んだ教育サービスを利用することができるなどが挙げられる。

## （2）コンテンツマネジメントの動向

現在、パーソナルコンピュータが普及して久しい。その結果、個人が、マイクロソフト社製などの提供するソフトウェア（Microsoft-Office 等）を活用し、教育に携わる教育者それぞれが、教育現場で活用する教材を自分で企画し、編集し、電子データとして加工して、最終的な教材とすることが一般化している。ファイル形式としても、ワープロだけでなく、プレゼンテーション形式のファイルを、個人が作成できる。

こうした動向を踏まえて、e-learning プログラムの運用サイクルの「教材の作成段階」においては、そのように作成された汎用的なファイルをそのまま、e-learning 教材として活用するということが現在、主流となりつつある。かつては、専用の LCMS のインターフェイスが用意され、システム専用のスライドなりページ構成、そして質問回答のパッケージが作成されていたものが、今では、パワーポイントやワード、またそれらを PDF ファイルとして加工して作成したファイル等を、LCMS からアップロ

ードすることで、すぐに e-learning 教材にすることが可能となっている。

こうした動向を受けて、例えば、先述の「ナレッジサーブ」(ナレッジサーブ株式会社) などでは、さまざまな分野で活躍している人が、気軽に講師として、サービスに登録し、自前の教材を活用しながら、希望する受講者に対して、有償により独自で培ってきた知識を提供することが可能となっている。

ナレッジサーブのホームページに拠れば、講師は、月々4,980円から、e-learning プログラムの講座を持つことができるようになってきている(プランにより幅がある)。またプランにもよるが、講師は、その受講者から徴収した講座の収入分の70%~80%を、自分の収入にすることができる。

このように、教材の作りこみが容易になり、かつ、教材を販売するプラットフォームが徐々に整備されてきたことにより、e-learning プログラムは、一般の人が書籍を購入するような感覚で、あるいは、講演会に出かけるような感覚で、今後利用されることになる可能性がある。

### 1-3. 教育者が教材を作成するにあたっての進め方

ここでは、教育者が、e-learning プログラムを作成するにあたっての進め方について、整理する。上述の動向を踏まえての話となるが、一般的には、この教材の内容そのものを作成するプロセスについては、定型的なものがあるというわけではない。LCMS 上でも、教育の最終的な体裁等が規定され、教材のファイル形式やファイル作成上の技術的な制約があらかじめ定められているだけで、教材の内容そのものを作成するプロセスに関するガイド的なものは通常組み込まれていないのが実状である。

そこで、特に、健康危機管理の分野で、教育を実施する教育者がどのように e-learning プログラムを作成すべきか、ということ念頭において、その進め方をまとめる。

#### (1) e-learning 教材の作成フロー 図5

e-learning 教材の作成フローは、以下である。①教材の作りこみ、②プログラム化を前提としたワーディング、③イラスト・音声・アニメーションを含むスライドの作りこみ、LMS への組み込み、という流れとなる。特に、第一段階である「教材のシナリオ作り」は、教材作成の最もコアとなる重要な部分となっている。そのそれぞれを進めるにあたっては以下の留意点を踏まえる必要がある。

(参考)

国立保健医療科学院  
LiveImparare 教材作成の流れ  
図 6

以下は、国立保健医療科学院における LCMS である、“LiveImparare”の教材作成の流れである。詳細は LiveImparare5.2 教材作成マニュアルを参照のこと。

## (2) 教材の種類

教材のシナリオ作りの前提としては、教材の種類を確定する必要がある。e-learning 教材の種類としては、その教育効果から考えると、以下の4つの種類を挙げることができる。

- ①知識伝達型
- ②ロールプレイ型
- ③共同参加型
- ④その他

### ①知識伝達型

e-learning で最も一般的な教材の種類である。ある分野、あるいはある事項について、体系的に整理された知識を順序立てて説明するというもの。法律への対応、医学的知識の基礎など、基本的な考え方を提示した上で、細目について、解説を加えることとなる。スライド形式とともに、映像を活用した講義形式で提供されるものも一般的である。e-learning 教材としては、基

本事項を伝達した上で、認識にもれないかの確認が目的となる。したがって、セクションごとなどに、その確認のためのテストを挿入することになる。

### ②ロールプレイ型

より参加型で、状況シミュレーション的な要素が強い教材である。e-learning 教材としては、まだそれほど一般的ではないが、今後、アニメーション技術などを活用して、ゲーム感覚で学習を進めるという方向で、発展していくことが想定されている。学習の形態として、従来は訓練などで現実の事態を想定した上で実施されてきた種類の教材であるといえる。この種類は、さらに、シナリオの選択肢が存在して、ストーリーがその選択肢ごとに分かれるものとそうでないものがあると考えられる。

### ③共同参加型

この共同参加型は、上記①、②の応用版である。特に、②について、集団での意思決定、検討を行うことで、知識の定着がより促されることが想定される。技術的には、既に普及段階にあるTV会議システム等の仕組みを使うことで、必ずしも物理的に集まらずとも実施することが可能である。チームとして、同一の教材をもとに、意思決定を実

施して、学習を進めていくことになる。

#### ④その他

その他としては、e-learning教材に閉じず、講師とのコミュニケーションを重視するタイプのものや、あるいは、オフラインの講習のサポートとして、事前に自主的な検討を促すきっかけを与えるものなどが考えられる。

### (3) 教材内容の検討例

#### ①教材における基本事項の設定

表4：シナリオにおける基本事項の設定例

「教材のシナリオ作り」を進めるために、前提として、まず、以下の基本事項を整理する必要がある。想定されるe-learningプログラムの受講対象を確定し、その教育目的を明確化した上で、先述の教材の種類を選択する。

この際に、情報システムの観点から言えば、受講対象のITリテラシーのレベル、受講者の所属機関における情報インフラの状況、また、想定される受講者の講習受講のタイミングなども合わせて検討しておく必要がある。受講者の種類によっては、携帯端末による教材提供を実施した方が効果が高まるということも考えられる。

#### ②教材内容の検討例

表5：基本シチュエーションの設定例

表6：シーン検討例

表7：目次（シチュエーション推移）構成例

基本事項が確定した後は、教材の内容の検討に入る。知識伝達型は先述の通り、体系的に整理された知識を順序立てて説明するということになる。また、共同参画型は、他の2つの種類の応用編である。そこでここでは、ストーリーの存在する教材である、ロールプレイ型の教材内容の検討の例について、まとめることとする。

ロールプレイ型の場合、まず、基本シチュエーションを設定する必要がある。以下のように、健康危機管理の教材検討に当たっては、登場人物、季節/時間帯、発生事象、事象の発生場所、そして、発生原因等を設定すれば、ストーリーが明確化しやすい。

基本シチュエーションを設定した後は、ストーリーの各部分を構成するシーンをいくつか想定し、受講者が流れを理解しつつ学習が進むような意味のかたまりを作ることとなる。シーンごとの教材を作りこむ作業は、パワーポイントなどのスライドをベースに作成する方法が望ましい。パワーポイントのスライドは、目安であるが、シーンごとに4～5枚程を限度とすることが望ましいと考えられる。

シチュエーションと、シーンがおおよそ確定したら、シーンの推移を明確化して、教材の目次を確定する作業に入る。この場合、ストーリーの分岐パターンがある場合と、ない場合を想定しておく必要がある。ストーリーの分岐パターンがある場合については、それに合わせて、想定シーンを追加するなどの作業を行う必要もある。

システム的な観点から言えば、ストーリーを分岐させるなどについては、HTML ファイルのリンク付けを活用して、容易に設定を行うことが可能である。ストーリーの推移のストラクチャーを決めた上で、適切にページ間のリンクを張ることで対応することになる。

上記は一例であるが、この考え方を参考にすれば、効率よくロールプレイ型の教材も作成することが可能であると考えられる。

その後は、作成フローおよび留意点に従って、プログラム化を前提としたワーディング、イラスト・音声・アニメーションの組込を含むスライドの作りこみ、LMS への組込を実施することになる。イラスト・音声・アニメーションの組込については、外部協力業者に委託することで、効率的に実施することが可能である。また、LMS への組み込みは、それぞれの団体・機関で採用している LMS に従って、実施することとなる。

(4) e-learning 講座開設に当たっての整理事項

e-learning 教材の作成、システムへのアップロードが終了した後は、その講座の受講者向けの情報をいくつかの観点から整理しておく必要がある。以下で、想定しておくべき整理項目を挙げている。

#### ①講座の説明 表 8

まず、受講者向けに、講座名、講座内容、講師名、講師連絡先（メールアドレス）、それから、受講者の状況に応じて表示させるコメントを整理しておく必要がある。

情報システム的な観点から言えば、受講者に対して、講座受講前、講座受講途中、講座終了後それぞれの状況に応じてコメントを出すような工夫が考えられる。その場合、あらかじめそれぞれのコメントを準備しておき、決まったタイミングで表示させることがシステム的には可能である。なお講師のメールアドレスは、e-learning 講座管理用のものを設定しておくことが望ましい。

#### ②講師情報 表 9

講座を担当する講師については、必要に応じて詳細のプロフィール情報と、他に担当している e-learning 講座があれば、それも合わせて提示しておくことが望ましい。

講師プロフィールや担当講座については、リンク等をつけることで、興味を持った受講者が閲覧できるような環境を整えておくことも考えられる。

### ③テスト問題 表10

テスト問題については、選択式テストおよび、記述式テストがそれぞれ考えられる。選択式については、質問文、想定される選択肢、正答、それらの解説をそれぞれ記載することとなる。

記述式テストについては、質問文、モデル回答、解説を設定するパターンと、モデル回答は示さず、後日添削して解説も含めて返すというパターンが考えられる。

情報システムの観点からは、まず選択式テストについて、複数のパターンを用意しておき、それをランダムに表示させることで、受講者がさまざまな観点から学習を深めることにつながる事が可能となる。また選択式については、受講者が答えた段階で、システム上で集計、評価等を行うことが可能である。記述式テストについては、システム上で模範解答例を提示する場合と、講師のもとに全ての回答を集約して、添削した上で、システム上で解説を含めて提示する場合は考えられる。

### ④ FAQ ( Frequently Asked Question) 表11

長期にわたって提供し続ける教材、あるいは、個別のチュートリアルを実施しない教材については、FAQ を設定しておくことが考えられる。

情報システムの観点からは、チュートリアル機能が設定されている LMS であれば、受講者と講師との過去のやり取りのログを蓄積しておき、それをまとめて分析し、分類・整理することで、FAQ を効率的に作成することが可能となる。

### ⑤講座内容 表11

上記のコンテンツを全て設定し終えた段階で、最終的な教材のパッケージが出来上がることとなる。最後に、基礎情報や FAQ、テストなども含めて、全体の構成を改めて整理する。

#### 1-4. システムによる教育効果の評価

システムによる教育効果の測定については、一般的に以下のような手法および管理指標を使って、実施されている。技術的な観点から言えば、評価の手法は、それほど多様に存在する訳ではない。

### ① 受講状況ログ管理

図7：管理指標例

これは、受講者の学習状況について、進捗管理を行うプロセスで何らかの評価を行う際に採用される管理の指標である。LMSを活用することで、システムを利用する受講者のアクションを、システム上で細かく把握することが可能である。個人の属性（性別、年齢、経歴等）に応じた集計を行うことにより、教育コンテンツの対象者管理等に役立てることもできる。

**②テスト（選択式、記述式）** 図 8 :  
管理指標例

これは、教材と合わせて提供される確認用のテストを活用して、受講者の理解度、考え方の傾向、判断力等について評価をすることができるものである。テストには、先述の通り、選択式テストと、記述式テストがある。

**③アンケート調査（選択式記述式）**  
図 9 : 管理指標例

## 5. 著作権等についての考え方

### (1) 関連する法規制

**①著作権法**

表 1 2 : 著作権法の構造

表 1 3 : 主な著作権（財産権）  
とその概要

以下に著作権法の構造を示す。

著作権とは、譲渡・相続することができない著作人格権と、譲渡相続することができる著作財産権の 2 つに分けられる。なお、日本の著作権法の下では、以下の全ての権利は創作の時点で自動的に創作者（著作者）に発生する。

次に、著作権が、e-learning 教材の管理プロセス上、どのように関係してくるかについてまとめたのが以下の表である。デジタルデータであるため、複製権、公衆送信権、上映権など、いくつかの場合に適用されることとなる。

**②個人情報の保護に関する法律**

表 1 4 : 個人情報保護法の概要

以下に、個人情報の保護に関する法律（以下「個人情報保護法」）の構造や、定義について、その概要をまとめる。

### (2) 教材コンテンツを作成する際の留意点

e-learning 教材を作成し、また、その教材を活用して、適切に教育を実施するための留意点について、以下に整理する。

**①著作権対応** 表 1 5, 1 6

e-learning 教材の作成に当たって、著作権対応ためには、コンテンツの作成過程と、コンテンツの流通販売過程と 2 つに分けた上で、

整理する必要がある。権利帰属の整理の流れについては、具体的には、以下の各行為について、関係者の間で、あらかじめ発生する権利に関する取り決めを交わしておくことが必要である。

特に、流通、販売過程については、デジタルデータである場合が多く、複製権等、通常ではそれほど想定しないような権利が発生するため、事後的なトラブルを回避するという観点からは、事前の取決めを交わしておくことが望ましいと言える。

(参考) 著作権対策のための契約書条項のサンプル 図7

教材活用主体等(甲)と教材コンテンツ提供者(乙)との間では、通常は、業務委託契約等を締結することとなる。その中で、著作権対策のためには、知的財産権についての条項を設定することが望ましい。図7は、そのサンプルである。

②個人情報保護対応 表17

e-learning教材を使った教育の実施に当たっては、受講者のデータ、講師のデータ、あるいは、e-learning教材を作成する際に必要に応じて実施するアンケート調

査など、さまざまな形で、個人情報扱われることが想定される。その際には、基本的には、以下の6つの対応項目を遵守する必要がある。

以上、健康危機管理支援情報システム(H-CRISIS)のe-Learningによる人材育成を推進するために必要な要件事項や考え方を整理し、必要な技術的方法を文書化することができた。

4 考察およびまとめ

効果的なeラーニング研修の提供が極めて重要かつ効率的であると考えられることから、本研究成果に基づく方法論によりH-CRISISのeラーニング研修を今後推進することは、地域における健康危機管理に必要な情報のうち人材育成に関わる情報を効率的かつ妥当に行う際、有用であると思われた。

【文献】

経済産業省商務情報政策局情報処理新興課監修、特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソシアム編。eラーニング白書 2006/2007年版。東京：東京電機大学出版局，2006。



図1: Web2.0時代の学びコミュニティ「ナレッジサーブ」  
(ナレッジサーブ株式会社)

<http://www.knowledge.ne.jp/index.html>

インターネットでオンライン通信講座が開催できる講師向けeランニングサービス、及び受講希望者向け講座情報サービスがそれぞれ提供されている。

受講希望者は、会員登録をした上で、検索システムにより自分の受講したい教育コンテンツを探して、受講申し込みを行うことができる。



図2：防災・危機管理 e-カレッジ（総務省消防庁）

<http://www.e-college.fdma.go.jp/top.html>

表1：防災・危機管理 e-カレッジ（総務省消防庁）

<http://www.e-college.fdma.go.jp/top.html>

項目	内容
プログラムの提供対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般生活者</li> <li>・地方公務員</li> <li>・消防団員</li> <li>・消防職員</li> </ul>
教育コース例	<p>【一般向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●災害の基礎知識コース               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震・津波災害</li> <li>・風水害</li> <li>・火山災害</li> <li>・火災</li> <li>・災害の基礎知識コーステスト</li> </ul> </li> <li>●災害への備えコース               <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の備えチェック</li> <li>・家庭内の安全性チェック</li> <li>・わが家の耐震性チェック</li> <li>・損害保険</li> <li>・災害への備えコーステスト</li> </ul> </li> <li>●いざという時役立つ知識コース               <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期消火</li> <li>・救命手当</li> <li>・救命手当(AEDを用いた方法)</li> <li>・救命手当(包帯法)</li> <li>・救助</li> <li>・119番通報</li> <li>・電気安全</li> <li>・ガス安全</li> <li>・避難</li> <li>・安否の確認</li> <li>・災害時の電話の使用</li> <li>・気象庁から発表される情報</li> <li>・災害時のインターネットを通じた各種情報の入手</li> <li>・いざという時役立つ知識コーステスト</li> </ul> </li> <li>●地域防災の実践コース               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災の必要性</li> <li>・地域の防災リーダーの役割</li> <li>・地域防災の実践</li> <li>・地域防災の実践コーステスト</li> </ul> </li> <li>●災害時のボランティア活動の実践コース               <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時のボランティア活動の意義と役割</li> <li>・被災地に赴いてボランティア活動を行う際の心構え</li> <li>・災害時のボランティア活動の実践コーステスト</li> </ul> </li> </ul> <p>【地方公務員向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●災害対応の基礎コース               <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に関する主な法律</li> <li>・近年の主要災害の教訓</li> </ul> </li> <li>●災害予防コース               <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害予防対策としての取り組み事項</li> <li>・防災機関を対象とした図上型訓練の方法</li> <li>・的確に災害対策本部を立ち上げるための準備</li> </ul> </li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常通信システムの確保</li> <li>・備蓄体制の整備</li> <li>●災害応急対応 時系列コース <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震編-1 発生から24時間まで</li> <li>・地震編-2 2日目から一週間まで</li> <li>・風水害編-1 警戒段階</li> <li>・風水害編-2 災害発生後</li> </ul> </li> <li>●災害応急対応 基盤コース <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の動員と配備</li> <li>・災害時の通信手段</li> <li>・防災情報の活用</li> <li>・被害情報の収集・整理・報告</li> <li>・災害対策本部の組織と機能</li> <li>・災害対策本部の空間と設備</li> <li>・避難勧告・指示と警戒区域設定</li> <li>・二次災害の防止</li> <li>・輸送手段の確保</li> <li>・緊急輸送路の確保</li> <li>・応援の要請</li> <li>・ボランティアとの連携</li> <li>・災害救助法の適用</li> <li>・東海地震に関連する情報とその対応</li> </ul> </li> <li>●災害応急対応 活動コース <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災への対応</li> <li>・水防活動</li> <li>・救出・捜索</li> <li>・広報・広聴</li> <li>・医療救護</li> <li>・災害時要援護者への対応</li> <li>・避難所の設置・運営</li> <li>・遺体の安置・処理</li> <li>・食料の供給</li> <li>・生活関連物資の供給</li> <li>・応急給水</li> <li>・仮設トイレと防疫・保健衛生</li> <li>・住宅・宅地被害への対応</li> <li>・被害の認定・り災証明の発行</li> <li>・応急仮設住宅・一時提供住宅の供給</li> <li>・災害廃棄物対応</li> <li>・義援金・義援物資の受付・配分</li> <li>・児童生徒の安全確保・文教対策</li> <li>・社会秩序の維持</li> </ul> </li> <li>●災害復旧・復興コース <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災者・被災事業者への支援</li> <li>・心のケア対策</li> <li>・被災者生活再建支援法</li> <li>・災害弔慰金等の支給・貸付</li> <li>・被災事業者の自立を支援するための各種融資制度</li> <li>・復興計画の作成</li> </ul> </li> </ul>
サービス利用の方法	インターネット上のフリーコンテンツ
その他	他に、グループ学習用の「e-カレッジ学習管理システム」が用

意されており、地方公務員、消防団員、学生・生徒等、自主防災組織、町内会・自治会等地域住民組織、ボランティア団体及び事業所の人々が、効率よく防災に関する知識を取得行うことができるようになっている。

### 全体スケジュール

	17年度	18年度	19年度	20年度	
eラーニング教材作成	教材検討・企画1 ↓教材設計・制作1	教材検討・企画2 ↓教材設計・制作2 教材検証・評価1	教材検討・企画3 ↓教材設計・制作3 教材検証・評価2 教材検証・評価3	本運用開始	
ユビキタスオンデマンド学習支援環境の構築	プロトタイプシステム検討・設計、製作	プロトタイプシステム検討・設計、製作 【試行1】3年生 臨地実習 システム検証	【試行2】4年生 臨地実習 システム改善		【試行3】1～3年生 臨地実習 システム評価
eラーニングプログラム設計	eラーニングプログラムの検討・設計	プログラム検証・評価	eラーニングプログラム試験適用		
プロジェクト評価	中間評価1	中間評価2	中間評価3		総合評価

▲学部カリキュラムの見直し

図3：看護実践能力の獲得を支援する e-Learning (大阪府立大学)

<http://www.cango.jp/gaiyo.html#kyozai>

表2：看護実践能力の獲得を支援する e-Learning の内容（大阪府立大学）

URL：<http://www.cango.jp/gaiyo.html#kyozai>

項目	内容
プログラムの提供対象	看護学部の学生
教育コース例	<p>現在は、プロトタイプが構築されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習モード1：学習者の思考過程を整理できるよう、事例の分析ポイントを段階的に提示。</li> <li>● 学習モード2：関連する知識、看護技術、演習問題などを学習できる。</li> </ul>
サービス利用の方法	<p>現在、3ヵ年の実証中。本年度の平成18年度は、3ヵ年のうち2ヵ年目であり、来年度の試験運用に向けた検討・企画・製作期間である。</p>
その他	<p>本取組では、先進的な取組内容として、以下が挙げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習履歴が記録できる機能を備えたUSBメモリを活用し、これをパソコンに装着することで、簡単に、看護教材サーバから事例をダウンロードできるようにする。</li> <li>● 臨地実習前に必要な副教材をダウンロードして、自作のデジタル看護辞典を作成することができるようにする。この看護辞典を作成する過程で、学生たちは、自学自習し、既習知識の整理や統合ができる。</li> <li>● 自己学習中の学習支援として、携帯電話のメール機能を活用して教員に指導を仰げるような双方向学習支援環境を整備する。</li> </ul>

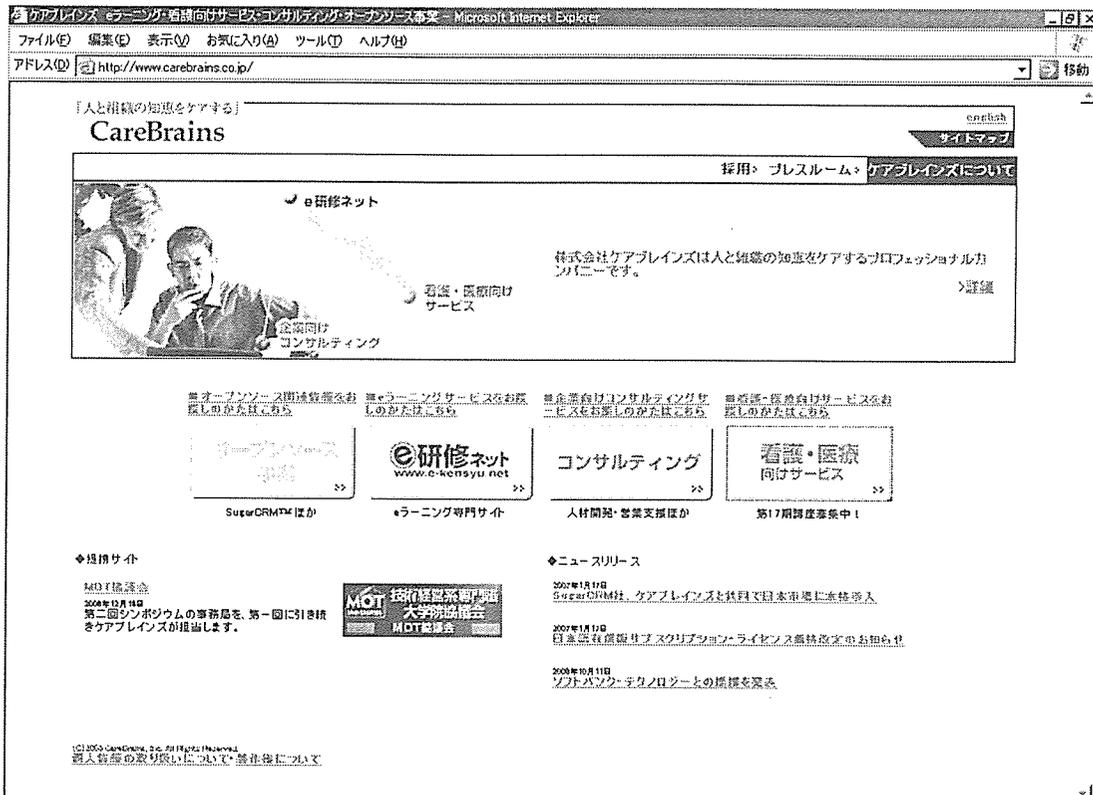


図4：看護・医療向けサービスケア・ブレインズ「e ケアスクール」  
(株式会社ケアブレインズ)

URL : <http://www.e-kensyu.net/medical/index.html>

表3：看護・医療向けサービスケア・ブレインズ「e ケアスクール」の内容  
 (株式会社ケアブレインズ)

URL : <http://www.e-kensyu.net/medical/index.html>

項目	内容
プログラムの提供対象	<医療機関看護マネジメント層> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関看護部長</li> <li>・看護師長</li> <li>・新任師長</li> <li>・主任</li> </ul> <医療機関看護師> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師</li> </ul>
教育コース例	<ul style="list-style-type: none"> <li>●看護人材開発パック                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護管理者のためのリーダーシップ</li> <li>・自立型人材を育成するコーチング</li> <li>・看護の質を高め、人と組織を活性化させる動機づけ</li> </ul> </li> <li>●看護目標管理パック                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の成果向上に直結させる目標管理</li> <li>・コンピテンシー：人材開発と能力向上のためのコンピテンシー・マネジメント入門</li> <li>・コンピテンシー：看護能力を高めるためのラーニング・ゴールの実践的応用方法</li> </ul> </li> </ul>
サービス利用の方法	医療機関向けに有料で提供されているサービスである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講料金：31,500円（本体：30,000円） /人</li> <li>・受講期間：3ヶ月</li> </ul>
その他	オフラインのマネジメントスクール（講座）や、コンサルティングサービスとの組み合わせで、e-learningプログラムが活用されている。

## 教材の作成フロー

## 留意点

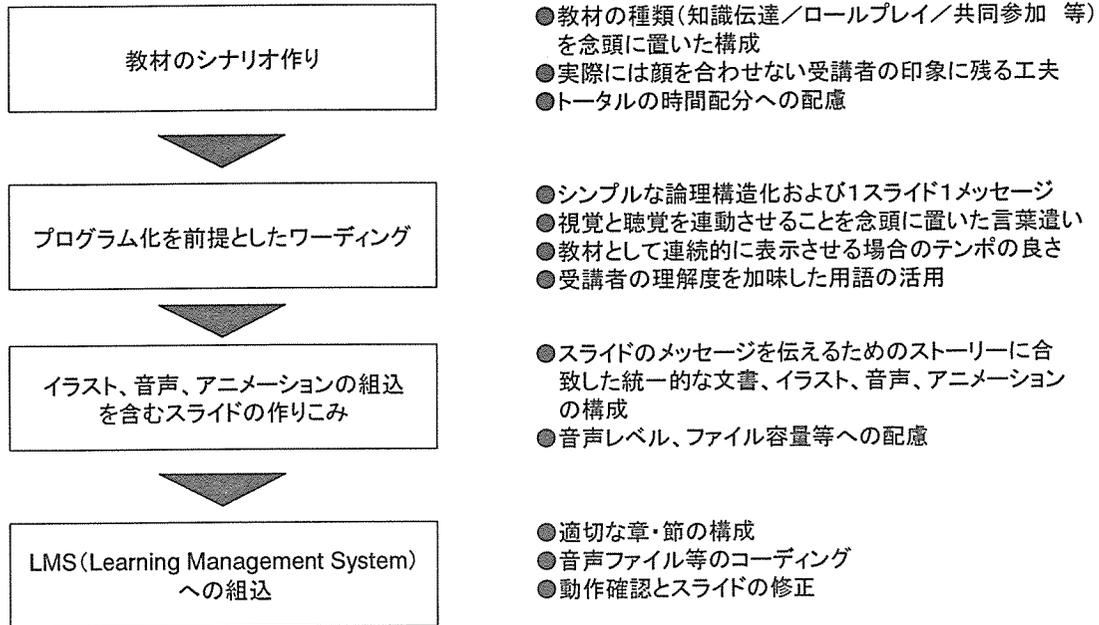


図5： e-learning 教材の作成フロー

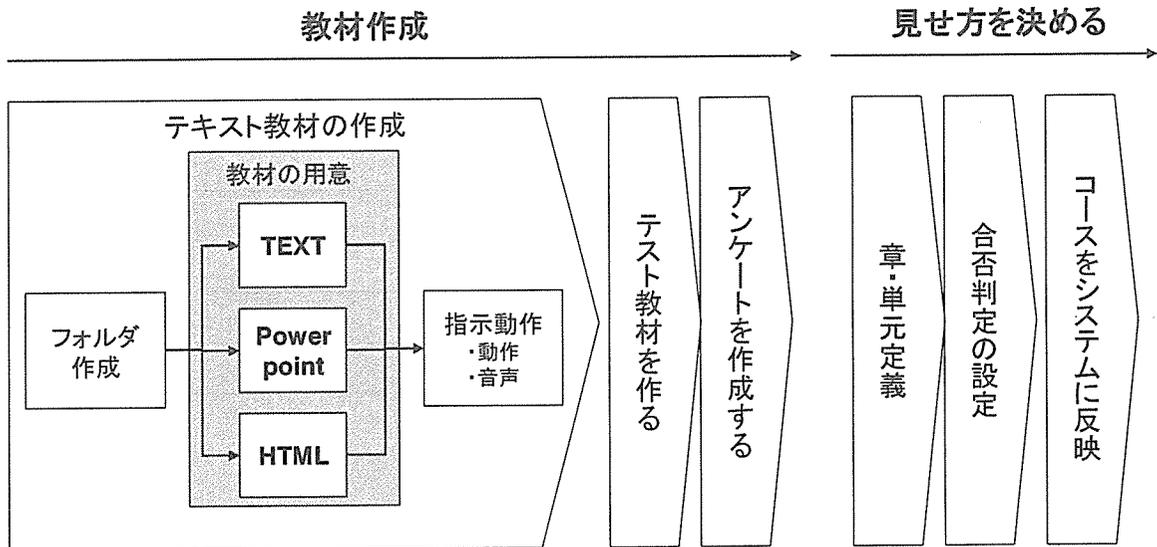


図6： 国立保健医療科学院 Livelmparare 教材作成の流れ

表4： シナリオにおける基本事項の設定例

設定事項	要素例	設定内容（例）
受講対象	役職	全国の保健所長等、保健所の意思決定責任者
	専門医学領域	感染症
	配属年数	配属1年目
	その他	・・・
教材の種類	①知識伝達型 ②ロールプレイ型 ③共同参加型 ④その他	②ロールプレイ型（ストーリーの分岐なし）
その他受講者 についての想 定	・ITリテラシーの高低 ・情報インフラの状況 ・受講するタイミング ・受講する際の端末の種類 ・その他	・・・

表5： 基本シチュエーションの設定例

設定事項	要素例	設定内容（例）
基本シチュ エーション の 設定項目	登場人物	・・・
	季節／時間帯	夏 勤務時間外
	発生事象	・・・
	事象の発生場所	地域の小学校
	発生原因	不明
	その他	・・・

表6：シーン検討例

	項目	内容例	内容
シーン1	前提整理	登場人物	消防士、保健師、医療機関、高齢者、障害者等の社会的弱者等
		発生事象の種類	台風が発生。家屋にも床下浸水。
		対応体制	消防、医療機関。道路や通信のインフラはダウンしている。・・・
	Q & A	質問事項	・・・
		回答選択肢	①・・・ ②・・・ ③・・・
	解説	典型的に求められる対応	・・・
		注意点（考察ポイント）	・・・
		補足・参考資料	過去の〇〇県〇〇市における対応事例資料

表7：目次(シチュエーション推移)構成例

教材の目次構成	目次（シチュエーション推移）		概要
	危機発生		〇〇
	地域特性の確認		
	ストーリー分岐パターン無		
	対応1		
	対応2		
	対応3		
	・・・		
	ストーリー分岐パターン有		
	対応α		
	対応β		
	対応γ		
	・・・		
	留意点		
	他の地域への示唆		
まとめ			

表 8 : 講座の説明

項目		内容
講座名		
講座内容		
講師名		
講師メールアドレス		
コ 想 定 講 師 メ ン ト	未受講者向け	
	受講途中者向け	
	受講修了者向け	

表 9 : 講師情報

項目	内容
講師プロフィール	
担当講座紹介	①健康危機管理の基礎知識・・・ ②〇〇発生時の健康危機管理 ③・・・・・・・・

表 10 : テスト問題

	項目	内容
選 択 式 テ ス ト	質問文	
	選択肢	①____, ②____, ③____
	正答	
	解説	

∴

	項目	内容
記 述 式 テ ス ト 1	質問文	
	回答例	
	解説	

∴